

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第99号

[2017年10月

号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第99号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

現地派遣員 神谷看護師 帰国報告会のお知らせ

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (38)

編集後記

次号の予定



現地派遣員 神谷看護師：帰国報告会のお知らせ

2年間の活動を終えた神谷看護師の帰国報告会を開催します！
また、ゲストスピーカーをお招きして、タイ国境やバングラディッシュ国境における難民の現状についてお話していただく予定です。

賛助会員以外の方にも公開しておりますので、お知り合いの方もお誘い合わせの上、是非ご参加ください。



1. 日時 平成29年11月25日(土) 15:30-17:00

2. 場所 [グローバルヘルス合同大会2017](#) 自由集会会場
第8会場 ダイワユビキタスホール

※学会会場での開催ですが、学会員に登録する必要はありません。どなたでもご参加いただけます

<東京大学本郷キャンパスへの交通アクセス>

- ・地下鉄丸の内線「本郷三丁目駅」駅下車徒歩8分
- ・地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅下車徒歩6分
- ・地下鉄千代田線「湯島駅又は根津」駅下車徒歩8分
- ・地下鉄南北線「東大前」駅下車徒歩1分
- ・地下鉄三田線「春日」駅下車徒歩10分

※参加者用の駐車場のご用意はありません。公共交通機関のご利用をお願い致します。



3. 参加費 無料

4. 申込み方法

参加ご希望の方は、

- (1) 氏名
- (2) 住所
- (3) 所属
- (4) 電話番号
- (5) パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス
- (6) 賛助会員の有無 をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。

メールタイトルは「活動報告会申込み」とご記入をお願いいたします。

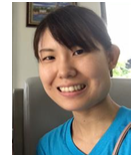
support@japanmaetao.org (担当：前川)

皆様のご参加をお待ちしております！



メソトマンスリー

最近のメソット



【メソト＝齊藤 つばさ】

いつもご支援いただきましてありがとうございます。

私がメソトへ赴任してから、もう2か月が経ちました。タイは毎日雨の降る季節がもうすぐ終わりということで、わくわくしています。辛い料理が食べられない、言葉も訛っていてよくわからない、と最初は毎日つらかったですが、少しずつ慣れてきて、基本的な生活が送れるようになってきました。

さて、READY FOR など日本のみなさまからの支援によって導入されたエアーマットレスなどの沢山の物品の管理についてお伝えしていきます。

これまで、タオルやシーツを患者さんが持って帰ったり、スタッフが汚れたものを捨ててしまうことにより、物品がなくなってしまうケースがあったということで、今回導入された物品を看護スタッフがカウントすることになったそうです。

どのスタッフも「これは大切なものだから」と物品を適当に扱っているわけではないのですが、記録を確認すると、前回のカウントが10日前だったり、なぜか定期的に物品カウントが行われておりません。

看護スタッフに現状を確認してみたことを簡単にまとめると

私：カウントやりたくないの？→スタッフ：「いや別にそういうわけじゃないよ」

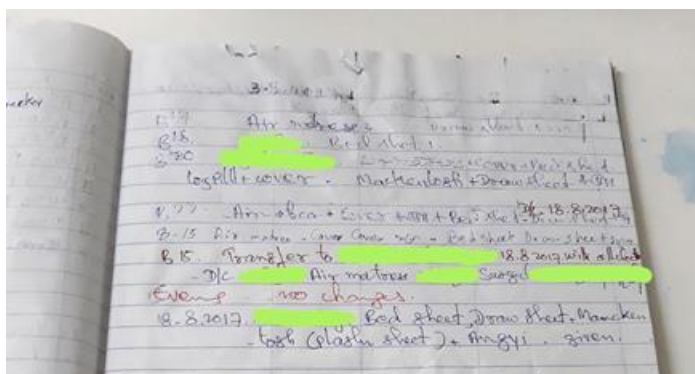
私：忘れちゃうの？→「まあ、急患とかきたらそんな場合じゃないよね」

私：そもそもいつやることにしているの？→「特にいつってないけど、気が付いた時かな？」

ということで、気が付いた時っていつになるんだ…？という思いと、だからカウントした人のサインがいつも同じ子の名前なのかと気付きました。(それまでその子が物品管理担当の係りかと思っていました。)

今まで、カウントする曜日や時間帯・記入方法などが明確に決まっていなかったようです。

物品の個数しか書かれておらず、倉庫に何個あって、患者が何個使用中(写真1)なのかわかりづらく、スタッフによって記入の仕方もバラバラでした。そのため、新しい患者に使用する時に、在庫が何個あるのか・どれが使用できるのかという確認が大変でした。



(写真1：患者への物品貸し出し記入欄)

まずは、スーパーバイザーのミャンマー人看護師さんと情報共有（写真2）して記録用紙の土台を作り、病棟の看護スタッフと話し合いを行いました。

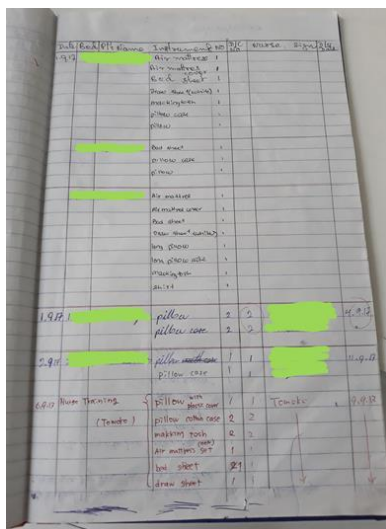
このレイアウトはどう思う？ → 「こっちは微妙」
こういう風に記録できそう？ → 「これくらい大丈夫だよ」
週に1回できそうな曜日や時間帯は？ → 「木曜日の夜勤ならできるかな」
じゃあその時間が忙しくてできなかったら？不足分はいつ探すの？ → 「翌日の日勤かな」



(写真2：ミャンマー人看護師と情報共有)

記録の形式が決まり、カウントする曜日が決まってからは、私が今日カウントする日だよね？とリマインドすると、「そうだよー、この業務終わったらやる予定だよ」とスタッフが週に一度行っています。（まだ4回目ですが）

患者への貸し出しも誰が使用中で、誰が退院したかがパッと見てわかるようになりました。（写真3）



(写真3：改良した患者への物品貸し出し記入欄)



私がオペ室で勤務していた時も、毎週土曜日、全部の器械の物品カウントの業務がありました。ハンマーの数が1本合わないだけでもオペ室中探して、見つからなければ、修理にでないか？病棟の貸出記録が抜けてないか？と方々問合せ、それはそれは面倒な仕事でした。

しかし、自分たちで使用するものなので、自分たちで管理するという当たり前のこと。それが継続され、もっと簡単な管理方法へ変更していけるようにこれからも関わっていきたいと思います。

国内から

【東京＝上田】

皆様こんにちは。

JAM では経理の担当をさせていただいている、上田です。かつてはメータオ・クリニックでも働かせていただいていたいました。現在は、日本で NPO でのファンドレイジングに取り組んでおります。

本日いただいたこの機会に、ちょっと頭を悩ませてしまう話をさせてください。メータオにいたころ、一番難しかったことといえば、まずはお金がいつも足りなかったことです。二番目にはメータオはひとつのクリニックでも、そこで生活している人は実にいろいろな人がいるので、みんなが同じ意見を持っていることはまずなかったことです。こうなると、わずかにあるお金を、みんなでどうやって分けようか、という話になると、埒が明かなくなってしまうこともしばしば。当たり前のことですが、なかなかうまくいかないもので、何時間も話し合いが続いたものです。

話はちょっと飛んで、最近話題になっているバングラデシュへのロヒンギャ難民の流出。連日報道されているように、とても大変なことになっています。純粋に「この悲惨な状況を、少しでも緩和できるのなら」というお気持ちで、日本国内でも多くの方がバングラデシュの難民キャンプへの支援をしていらっしゃると思います。一方、「なぜアウンサンスーチー氏は何もしないのか」という批判の声も大きいですね。これまでのスーチー氏のことを知っている人なら、そう思うのも不思議はないなと思います。友人や同僚の間でも、そのような声はあります。そしてメディアに登場する専門家の話を聞くと、実際はスーチー氏には軍事的な力はないのだから、できることは限られている、という説明もよく聞きます。

この批判とその説明も、私はかなり前に聞いたことがあります。数年前にラカイン州で暴動がおこった際にも、このような批判と、それに対する説明がありました。批判はもったもです。起きてよい迫害などあるはずがないのだから、迫害に対して抗議する人は、どんな迫害に対しても 抗議すべき、ということでしょう。この迫害には反対するけど、この迫害には反対しない、ということはないはずですね。でも実際はやはり難しいな、と思います。数年前は、たまたま仕事のご縁で、スーチー氏にとっても近い存在である方の話をプライベートで聞く機会がありました。その方によると、スーチー氏はもちろんその時の状況に心を痛めていたものの、自分の口から何か言うことによって、その状況がよくなる可能性がある方法は全く思いつかないシチュエーションだったと、その人は身近にいて感じたとおっしゃってました。



メータオでの難しかったことを振り返って考えると、このこともメータオにいる人にとっては一言で語ることはなかなかできないことなのかなと誠に勝手ながら思います。自分の知っている限りでも、声をあげてロヒンギャ難民のことを支えようとする人もいれば、やはりロヒンギャを支援することには抵抗を感じているみたいだなと、話を聞いていて私がそう思う人もいます。自分が迫害にあった民族でありながら、他の人が同じような迫害にあっていたら知らんぷりですか、と厳しい見方もできるでしょう。でも人間の世界ってそんなに簡単に割り切れるものなののでしょうか？極端に限られた権力や財力の中で、今あるものを守らないといけない、そういったこともあるのかもしれない。

日本にいと、ちょっと自分とは離れた世界のことだから、理想論を追求しても自分の中で何か食い違ってしまう、ということはないかもしれません。私自身も、ある意味ファンドレイジングでのマーケティングは正論を唱えることが仕事のようなものなので、そのような理想論に走ってしまいがちです。でもメータオのコミュニティーの話を聞いていたり、スーチー氏の周りの人の話を聞いていると、根本的にはやはりまだ完全に民主化ができていないミャンマーという国の現実がそこにはあるのではないかなと思えて仕方ありません。メータオ・クリニックを頼りにくる患者さんたちも、正にその象徴なのではないでしょうか？だからこそ、まだまだこの先も、支援を続けていかなければいけないなと、そう考えている今日この頃です。

GLOBAL FESTA JAPAN 2017 に出展しました！

9月30日、10月1日にお台場で開催されたGLOBAL FESTA JAPAN 2017にJAMが出展しました。

爽やかな秋空の中、2日間の来場者は約12万人と多くの方がフェスタに訪れたそうです。JAMブースでは現地や日本事務局での活動紹介に加えて、昨年より活動を開始した看護研修の紹介も行いました。また、現地派遣員の神谷看護師、斉藤看護師とテレビ電話で中継を行い、来場された方へ現地での活動の紹介をさせていただきました。JAMの出展ブースには以前から継続してJAMの活動を応援してくださっている方々を始め、新しくJAMの活動に興味を持ってくださった方々等が足を運んでくださり、この度も温かな繋がりやご縁を感じた素敵な2日間となりました。

改めましてJAMの出展ブースにお越しいただいた皆様に心より感謝申し上げます。



スタディツアー報告

はじめまして。日本からの同行スタッフとして参加しました神成です。普段は都内で看護師の仕事をしています。

2017年9月11日～16日までタイ、メソトにあるメータオ・クリニックをはじめ、移民学校、ならびに他のミャンマーからの難民の方が利用している施設へ見学に行ってきました。今年の参加者は9名、学生から社会人を含め、全員が医療関係に関わりのある方々でした。雨季とは思えないくらい、毎日良いお天気に恵まれ、日に焼ける、熱中症になりそうだと、言いながら皆で楽しくも学びの多い1週間を過ごしてきましたのでご報告致します。

到着した1日目はまず、ミャンマーとタイの国境のモエイ川へ向かいました。川の周辺には軍人の方もいましたし、怪しい商品を売っているお店、どここの国でもないノーマンズランドを目の当たりにし、早速、国境である事を実感しました。その日の夕飯は眺めの良いレストランでご飯でした。ここのお魚のフライがとてもおいしかったです。

2日目は早速メータオ・クリニックへ。午前中は院内に見学をして回りました。すれ違うどの患者さんも家族も穏やかでしたし、子供が無邪気にしている様子がとても印象的でした。この日の午後に寄った旧メータオ・クリニックの建物とは明らかに違いました。明るく開放感もありました。ただし、医療関係者の参加者が多い事もありましたが、衛生面ではもう少し改善が必要な箇所もあるかもしれない、という意見が多くでした。午後にはシンシア先生との座談会もありました。私たちのどんな質問にも気さくに答えてくださって、とても穏やかに話される姿が印象的でした。今現在のメータオ・クリニックでの問題、医療者の育成について、教育制度の事も含めながらお話してくださいました。また、当会代表の小林潤先生による国際保健ワークショップや難民の中で教育支援の活動をしているシャンティ国際ボランティア会(SVA)の菊池さんからお話を伺い、この国境周辺地域やキャンプの状況についての理解が深まりました。

3日目は午前中に移民学校に向かいました。山の中にある、JAMが支援をしていたHOPE校という学校です。たくさんの子供達が勉強しておりびっくりしたのが正直な印象でした。どの子も大きな声で一生懸命先生の質問に答えたり、復唱をしていました。資源も限られた中での学校運営ですが、子供達とシャボン玉や折り紙と一緒に遊んでいるなかで、勉強だけではない、集団生活をする上での大切な事も、学んでいるなど感じました。

その後はゴミ山見学へ。ここで、生活している人達の環境をみていると、足の裏を怪我したり、ゴミの中のものを食べたりして体調を崩し、メータオ・クリニックに来る人もいる、とお話を伺いました。夕食は難民画家のマウンマウンティンさんのお宅へ訪問してごちそうになりました。彼のお話は参加者全員にとってショッキングな話でした。その彼が描いている絵がポストカードになっていました。私達の心を特に惹いたのは、彼の絵も素敵ですが、絵と共にあるコメントでした。絵だけでは想像もつかない、彼の経験からつけられたその絵とコメントにすっかりファンになった参加者さんもいました。

4日目は自由行動の日でした。午前中、数人はタイ公立病院のメソト病院への見学に行きました。メータオ・クリニックでは限られた検査や治療しかできません。専門的な検査や治療はこのメソト病院へ搬送される事になります。転送患者を受け入れる病院として、難民の人に関わる問題、特に金銭的な事や、DVに関わる事をお話してくださいました。他の問題としては、感染症管理に特に力をいれていると話していました。午後は希望者と一緒にミャンマー側のミャワディという街へ行ってきました。タイとミャンマーを隔てているモエイ川にかかる国境の橋を歩いて



渡ることができます。すぐ先に見える川の対岸に渡っただけなのに、言葉はもちろん、町の雰囲気も違って驚きました。特にお寺の仏像のお顔がタイとはまた違ってとても印象的でした。お昼をミャンマーで食べましたが、カレーは辛かった！みんなで暑い中更に汗をかいて食べていました。

5日目はメラ難民キャンプへ行ってきました。ここではキャンプ内の学校、病院、図書館の見学をし、実際に難民の方へのお宅へお邪魔してお話を伺ってきました。ゆくゆくは難民キャンプは閉鎖になってしまい、支援もどんどん少なくなっており、ここに住んでいる人たちは、特に若い人達は将来の不安がかなり強い、という印象を受けました。最後の日は皆で振り返りをしてバンコクへ戻り、無事に全員帰国しました。

あっという間に過ぎてしまった1週間でしたが、現地の方と直接お話をして色々な事を聞いて体験し、とても学びの多いとても貴重な機会となりました。ツアーが終わったあとでも、参加者さん達と色々な形で繋がり、素敵なお縁にも恵まれた機会となりました。





国際保健医療協力のなかで (38)

【東京＝小林 潤】



9月にメータオ・クリニックを訪問し、国境を越えてミャンマー側をみる機会を得た。驚くべき速さでインフラ整備が進んでいる印象を得た。ミャンマー国内のカレン州においても舗装道路でつながり、末端の医療機関であるヘルスセンターも新しい建物に建てかわっているところが多い。手術器具や分娩器具も真新しいものが置かれているところもあった。これらの保健医療の最前線では、白衣に赤色のラインがはいった看護師さんが懸命に働く姿をまたみることができて少し嬉しかった。

15年以上も前にミャンマー国内で働いていた国際保健の先輩が、これらの看護師さんをレッドエンジェルと呼んでコラムを書いていたのを思い出した。赤は新人の看護師さんで、経験によって職位があがり青、緑を白衣の淵の色がかわってくるとのことだ。末端の医療機関には医師は配置されず、この看護師さん達が診断・治療をし、分娩も行う。忙しい診療の合間をぬって、地域にもでかけて保健師さんとしても働く。まさにエンジェルである。

一方、今回の訪問で、「メータオ・クリニックで養成された医療者はメディックスというが、彼らは国内に戻り、何をしているのか」この疑問は半分しか解決しなかった。案内してもらったスタッフに英語からビルマ語に通訳してもらって、得た情報では村落レベルのボランティアとして活用されているとのことだった。残念ながら一日の訪問では限界があり、懸命に案内してもらったのだが、彼らの働いている現場は今回は見れなかった。またどのように生計をたてているのかもわからなかった。他の情報ではカレン族が自治している地域では、政府とは別の保健システムが存在し有効活用されているともいう。すなわち政府の統治がいきわたらないところでは、彼らのような政府側からみると無資格な保健医療従事者が診断・治療を担っているという情報もある。

途上国のへき地では、保健医療人材の欠乏は共通課題であるとともに、保健医療人材の質の確保も問題である。すなわち、簡単には無資格医療従事者が政府の管理する保健医療機関で有効活用されることにはならない。いかに優れた医療技術をもつ人材であっても、無資格者の労働を認めることは、国全体からみると医療の質を管理できることが難しくなるといっている。日本も医師も看護師も国家試験をパスし免許取得することが最低限の質の担保につながっている。

どのようなことをすれば、人材の有効活用になり、かつ、へき地貧困層への医療サービスの提供になり、健康改善につながるのか。そしてそれが近い将来、継続的に確立したシステムにもなるのか、よく考えないと提言もできないと思った。暫定的に限定地域で認められる免許をだすようなことができるだろうか。



編集後記

グローバルフェスタの当会のブースにお越しいただいた皆様、ありがとうございました。今年
は、天候にも恵まれ、たくさんの方が立ち寄って下さり、うれしい2日間となりました。
そして私の今回のグローバルフェスタの一番の思い出は、ピコ太郎のショーを見ることができた
ことです。我が家の3歳児は、ピコ太郎が大好きなので大喜び。必死に手を振っていました。

次回のイベントは、11月25日に東京大学で神谷看護師の帰国報告会です。ご都合がつきま
したら、ぜひどうぞお越しください。

次号の予定

次号は、11月中～下旬ごろ配信の予定です。
新しく、インスタとツイッターも開設しました。
ホームページも含め、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM
の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動
など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていくよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイ
ート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご
支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口
座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホ
ームページをご覧ください。



**NPO法人メータオ・クリニック支援の会 Japan Association for Mae Tao
Clinic (JAM)**

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao



※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。



